

日本獣医師会雑誌獣医学術学会誌の 電子媒体(オンラインジャーナル)への一本化について

今般、日本獣医師会雑誌の獣医学術学会誌(本誌の後半部分)については、社会環境が変化し、情報の公開・入手基盤がインターネットを用いたオンラインツールを中心としたものとなる中で、今後の学会誌のさらなる利便性向上、利用拡大による投稿数及び被引用数の向上を図るため、電子媒体への一本化(電子化)に向けた検討を開始することとした(別記)。

一方、日本獣医師会雑誌の前半に掲載している会員向け情報提供誌面については、継続して紙面にて発行することとし、会員構成獣医師への最新かつ身近な情報提供等、さらなる紙面の充実に努めることとしているので、会員構成獣医師の皆さまにおかれては特段のご理解をお願い申し上げます。

【別記】

日本獣医師会雑誌獣医学術学会誌の 電子媒体(オンラインジャーナル)への一本化について

1 日本獣医師会雑誌における獣医学術学会誌発行の近況と電子化について

日本獣医師会雑誌の後半部分に毎号掲載している獣医学術学会誌(以下「学会誌」という。)については、平成24年2月3日に札幌パークホテルにおいて開催された獣医学術学会誌編集委員会においてオンライン化の検討が開始され、平成25年4月からオンラインジャーナルの刊行を開始した。以来、オンライン版の学会誌は独科学技术振興機構が運用する学術誌電子化サービス「J-STAGE3」に掲載している。その後、投稿及び審査の迅速化と利便性向上による投稿推進を図るため、平成28年4月から電子投稿・審査システム「Scholar One」を導入する等の取組みを進めてきた。現在、紙媒体(Print ISSN:0446-6454)と電子媒体(Online ISSN:2186-0211)の双方での発行を継続している。電子媒体については、紙媒体発行から1カ月後に、紙媒体の発行誌面と同一内容で発刊している。

社会環境が変化し、情報の公開・入手基盤がインターネットを用いたオンラインツールを中心としたものとなる中で、今後の学会誌のさらなる利便性向上、利用拡大による投稿数及び被引用数の向上を図るとともに、日本獣医師会雑誌の前半に掲載している会員向け情報提供誌面の充実による、会員構成獣医師への最新かつ身近な情報提供、ひいては会員組織基盤の強化を図ることを目的として、今般、学会誌の電子媒体への一本化(電子化)に向けた検討を

開始することとしたい。

2 学術雑誌の電子化による利点

オンラインジャーナルの利点は、審査が完了し採用された論文を、誌面構成・印刷を待たずに採用後すぐに公開できること、その最新の研究業績を利用者が公開直後から携帯端末等で場所を選ばず入手可能となること、オープンアクセスにより図書館や書庫などの保管管理場所に依存しなくても良いこと、公開論文がDOI(Web上の電子文献と一対一で対応しているコード)を付与されたオープンアクセス論文のみとなり、検索や機関リポジトリへの掲載がしやすいこと等がある。

電子化により情報の即時性、閲覧の利便性が大幅に向上する一方、発行元の印刷経費節減が見込まれる等の効果もあることから、今日では多くの学術雑誌が紙媒体からオンラインによる電子媒体に移行している。(例:日本獣医学会では発刊学術誌「The Journal of Veterinary Medical Science (JVMS)」を2017年(第79巻)第1号から紙媒体の発行を廃止して完全電子化。)

電子媒体としての本会学会誌は既に国内外で広く活用されており、アクセス数は月間18,000件を超え、(令和2年下半期の月平均アクセス数は要旨10,018件、全文PDF8,719件)、海外からも50カ国以上の利用がある。(令和2年12月実績。利用国:アラブ首長国連邦、アルゼンチン、オーストリ

ア、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、ベリーズ、カナダ、スイス、チリ、中国、コロンビア、キプロス、チェコ、ドイツ、デンマーク、エクアドル、エストニア、エジプト、スペイン、フランス、イギリス、ギリシャ、香港、クロアチア、インドネシア、アイルランド、インド、イラク、イタリア、韓国、ラトビア、メキシコ、マレーシア、オランダ、ノルウェー、ニュージーランド、ペルー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セイシェル、スウェーデン、シンガポール、タイ、トルコ、台湾、米国、ベトナム、南アフリカ)

日本獣医師会雑誌の一部である獣医学術学会誌は紙媒体を前提とした発刊形式であることから、限られた誌面の都合で掲載を先送りしていた論文があるが、電子媒体化が実現すれば即時掲載が可能となり、一早く研究業績を公開できる一方、紙媒体と電子媒体の双方の発行業務を行っている事務局業務の大幅な軽減を図ることも可能となる。

3 学会誌電子化に向けた今後の取組み

上記の理由から、学会誌についてはオンラインジャーナルへの一本化を図ることとしたい。一方、

団体機関誌として会員構成獣医師向けの獣医事情報等の提供を行う日本獣医師会雑誌前半の会報部分は、従来どおり紙媒体として発刊することとしたい。

学会誌の電子化にあたっては、インターネットの利用に不慣れな会員構成獣医師にも十分配慮し、学会誌に掲載された論文タイトルやスマートフォンでも閲覧できるQRコードの会報誌面への掲載等、論文の閲覧機会の確保に向けた工夫に努める必要がある。

学会誌電子化により誌面ページ数、編集コストの削減が図られることから、今後誌面のさらなる充実を図り、地方獣医師会の取組みに関する情報、新たな治療法等に関する情報、会員構成獣医師が興味・関心を寄せる多様で身近な話題の提供等、読者に親しまれ、会員組織基盤強化の一翼を担うツールとしての日獣会誌の発展を目指したい。

学会誌の電子化については、獣医学術学会誌編集委員会、業務運営幹部会及び理事会の承認を得た後、全国獣医師会事務・事業推進会議等における十分な説明と意見交換を行った上で実施することとし、第75巻第1号(2022年1月号)からの移行を念頭に取組むこととしたい。